

2010(平成 22)年度

学生による授業評価アンケート集計結果に関する報告

経済学部教育改善・自己点検委員長

はじめに

2010年度の授業評価アンケートの集計結果がまとまりましたので、ここに報告いたします。

経済学部では 2002 年度から授業評価アンケート調査を実施してきました。以後、学生のみならず教職員の協力によって実施を継続し、着実に授業の改善に役立ててまいりました。おかげさまで 2010 年度もまた無事実施することができ、現在、その結果が 2011 年度の講義に活用され始めています。

授業評価アンケート調査は、いうまでもないことですが、学部教育の実態を把握し、気づかなかった問題を発見し、そして、改善していくための基礎資料となります。東洋大学経済学部を向上・発展させていくために、今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

1. 調査の実施概要

今年度の調査は、大略以下のように実施されました。これは 2007 年度以降、ほぼ変わっていません。

<実施時期>

春学期科目 2010 年 6 月 28 日～7 月 10 日

秋学期科目 2010 年 11 月 29 日～12 月 11 日

<調査形式>

マークシートと自由記述を 1 枚ずつで実施しました。

マークシート方式：質問項目 17 個（質問項目は表 1 と表 2 参照）

ただし、質問 16,17 はゼミナール I だけの項目

自由記述方式：「良かったこと」「改善を要すること」「その他」について

<実施対象科目>

授業評価アンケートについては、本年度は以下のような基準のもとで実施しました。これも 2007 年度以降の方法を踏襲しています。

●専任教員

講義科目アンケートは 2 科目以上（1 年ゼミを含む）*

ゼミアンケート（専門ゼミ）は 2 部ゼミ含め 2～4 年すべてで実施。

* 科目選択の優先順位

①必修講義科目、②1年ゼミ（ゼミナールⅠA、ⅠB、入門演習等）、③選択科目。
必修が3科目以上の場合はその中から選択。ただし講義科目は必須、1年ゼミはできるだけ実施。

●非常勤講師：1科目以上

<実施科目数>

実際の実施科目数や回答学生数などに関するデータは表3のようになります。回答率が50%前後となっているのは、学生の出席率が低いからでしょう。講義に常時出席していない学生の回答が信頼性に欠けることはいうまでもありませんが、それにしても全体的に出席率が低いことは気がかかります。授業内容の改善の学生教育全般の改善に対する寄与度が低くなることを意味するからです。

表1 一般講義科目(含ゼミナールⅠ) アンケートの質問項目

設問	設問文	2010	2009	2008	2007		
Ⅰ	1	私はこの授業によく出席した。	○	○	○	○	
	2	私はこの授業の予習や復習をして意欲的に学習した。	○	○	○	○	
Ⅱ	3	シラバス(講義要項)は履修選択や授業の予習・復習に役立った。	○	○	○	○	
	4	教員は授業の準備をよくしていた。	○	○	○	○	
	5	授業内容は明確でわかりやすかった。	○	○	○	○	
	6	授業内容は刺激的であり、対象分野に対する興味が高まった。	○	○	○	○	
	7	話し方は聞き取りやすかった。	○	○	○	○	
	8	黒板の板書やスクリーン、テープ等で用いられた資料は視聴しやすかった。	○	○	○	○	
	9	教科書・参考書・配布資料は役に立った。	○	○	○	○	
	10	授業は毎週休講なしに、開始・終了時間を守って、規則正しく行われていた。	○	○	○	○	
	11	教員は、必要に応じて私語を注意するなど、受講者が講義に集中できる環境を作った。	○	○	○	○	
	12	教員は授業に情熱を持っていた。	○	○	○	○	
	13	レポート、宿題、自習課題、予習・復習の指示は適切であった。	○	○	○	○	
	14	教員は授業時間内・外の質問に快く応じ、適切な説明をした。	○	○	○	○	
	15	この授業は有益であり、友人や後輩に推薦できるものであった。	○	○	○	○	
	Ⅲ	16	このゼミによって教員やメンバー学生との交流ができた。	○	○	○	○
		17	このゼミは、大学における勉学の入門・向上に役立った。	○	○	○	○

表2 ゼミアンケートの質問項目

設問	設問文
I	1 説明会の実施方法は適切だった。
	2 志願書の提出方法は適切だった。
	3 説明会・募集要項等において、ゼミの内容の事前周知はわかりやすかった。
II	4 授業目標は、授業開始時等に明確に示されていた。
	5 運営方法は、目標達成のために適切だった。
	6 授業は毎週休講なしに、開始・終了時間を守って、規則正しく行われていた。
III	7 問題を発見し解決する能力が身についた。
	8 図書館・パソコン等を通じて情報収集能力が高まった。
	9 文章作成能力・発表能力が身についた。
	10 経済や社会に対する関心が高まった。
	11 経済や社会に対する理解が深まり、幅広い見方が身についた。
	12 自ら学ぶ姿勢が身についた。
	13 他の受講者や教員と有益な交流ができた。
	14 このゼミは自分にとって有益だった。
	15 自由設問（必要に応じて教員が自由に設定）
	16 自由設問（必要に応じて教員が自由に設定）

表3 学生による授業評価アンケートの実施科目数・受講者数・回答率(2010年度)

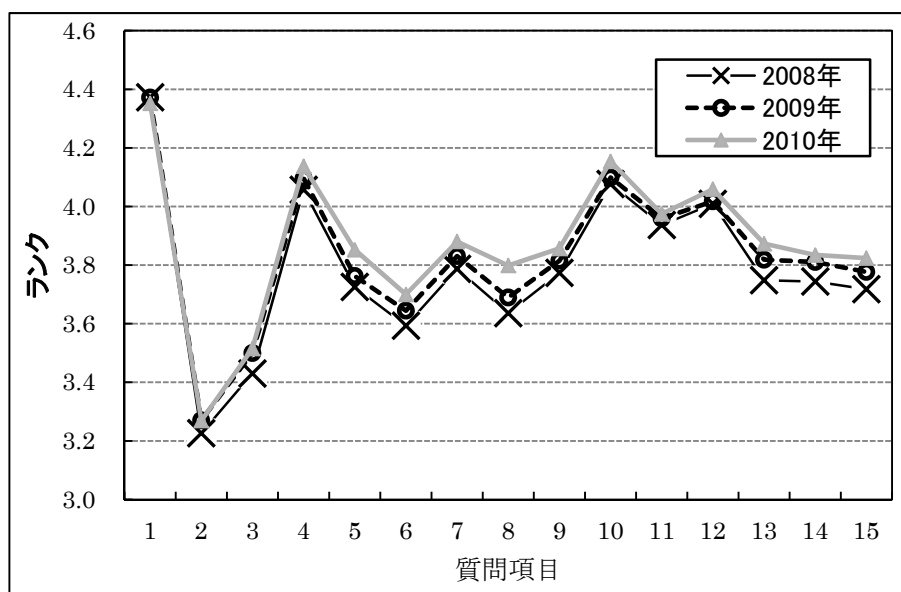
		実施科目	実施科目 履修者数	有効回答数	回答率
一般講義アンケート					
春学期	専任	76	6,687	3,840	57.4%
	非常勤	63	5,389	2,692	50.0%
春学期計		139	12,076	6,532	54.1%
秋学期	専任	91	10,672	4,727	44.3%
	非常勤	53	4,424	2,214	50.0%
秋学期計		144	15,096	6,941	46.0%
2010年度合計		283	27,172	13,473	49.6%
ゼミアンケート					
2010年度合計		120	1,986	1,470	74.0%

2. 一般講義科目（含むゼミナール I）の集計結果

2-1. 学部全体の平均

図 1 には、経済学部全体の平均の 3 か年の動向が示されています。2010 年度は、全般的に 2009 年度を上回っています。昨年度報告しましたように、2009 年度が 2006 年度以降において最高水準でしたが、2010 年度はそれをさらに超える高評価となったわけです。これはまことに望ましい結果と考えてよいことはもちろんですが、ただ、2009 年度との差がさほど大きいものではなく、質問によっては統計的な誤差の範囲にとどまるものもあります。

図 1 一般講義科目（含むゼミナール I）：学部全体の動向



2-2. 学科別の動向

学科ごとの集計結果については、2009 年度では全般的に国際経済学科が最も高い評価を得ていましたが、2010 年度は、学科間の差は、問 1～9 ならびに問 13～15 では、ほとんどありません。ただ、教員の講義に取り組む姿勢に関する問 10～12 は、相変わらず国際経済学科がトップ・レベルとなっています。

もっとも、学科によってアンケートの実施科目が異なることに留意する必要があります。むしろ、学科ごとの全体平均を経年的に整理した図 3 が有益でしょう。同図から、2010 年度には国際がやや評価を下げたものの、他の 3 学科は上昇し、学科間の差異がかなり縮小していることがわかります。各学科とも、評価の改善に努力し、その成果が毎年度、徐々に現れているようです。

図2 一般講義科目（含むゼミナールI）：各学科平均の比較

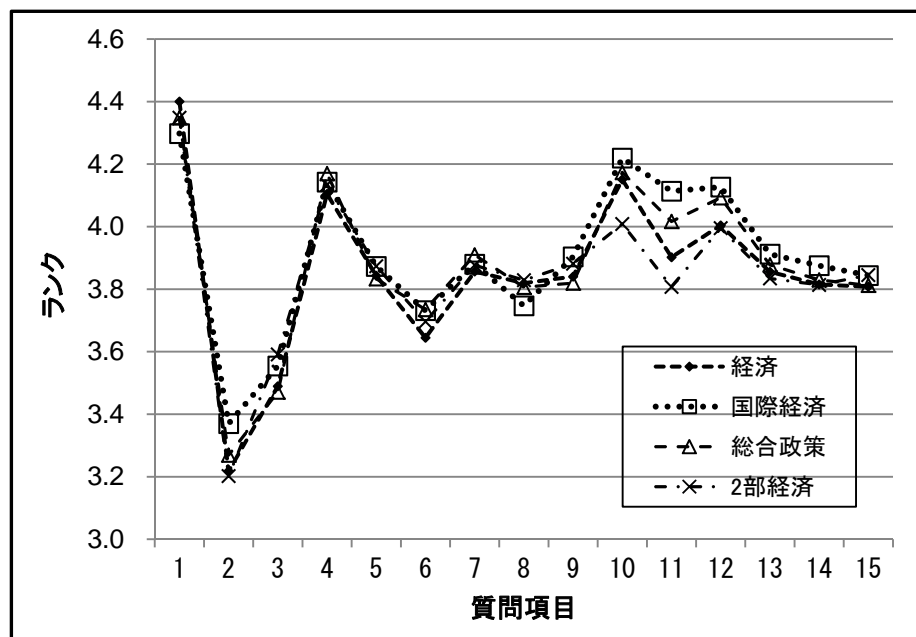
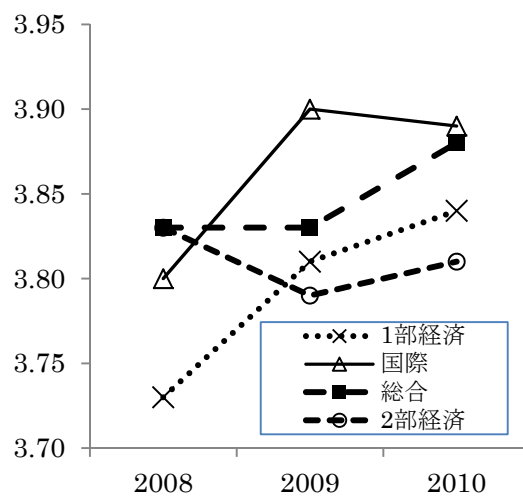


図3 一般講義科目（含むゼミナールI）：学科別の経年変化



2-3. 科目グループごとの集計結果

科目ごとに事情が異なる点を考慮して、科目グループごとの集計、すなわち、語学必修、語学選択、ゼミナールI、一般教養、専門必修および専門選択の6グループに分けて、それぞれの平均値を求めています（図4・5）。

図4 一般講義アンケートの科目グループ別平均の比較 I (2010年度)

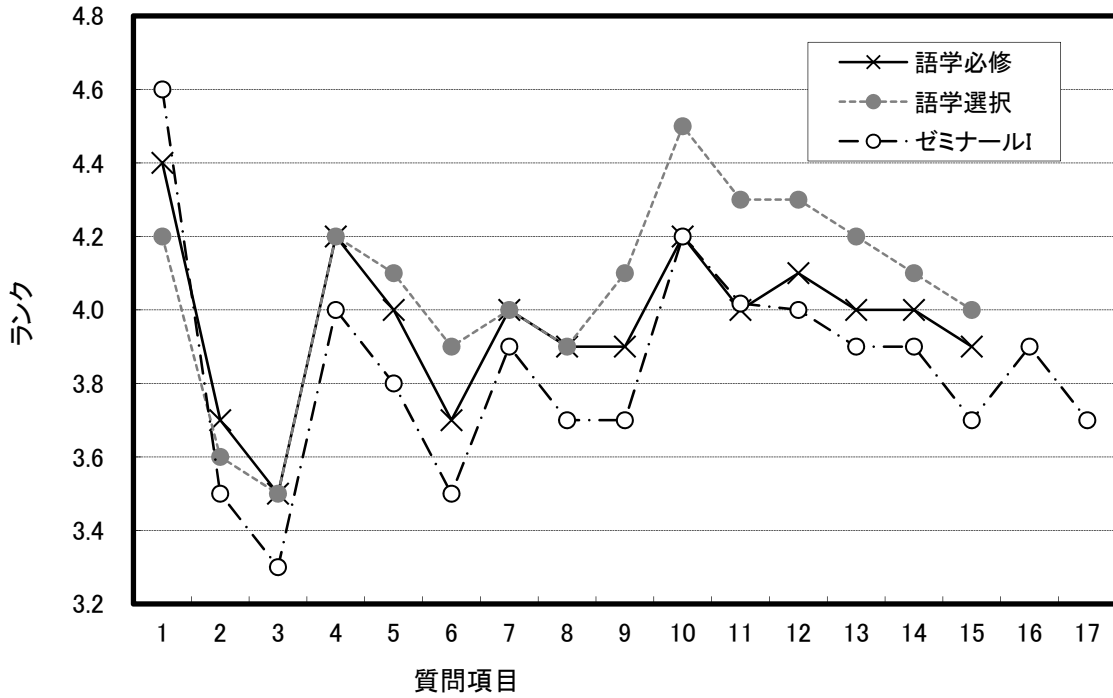


図5 一般講義アンケートの科目グループ別平均の比較 II (2010年度)

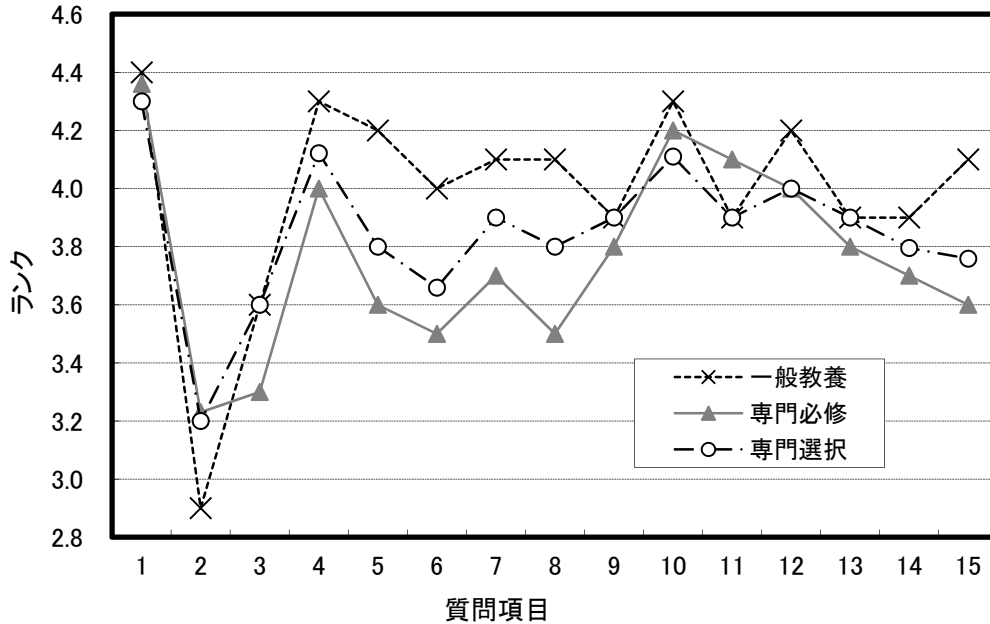


図 6 一般講義アンケートの一般教養的科目の経年変化 (2008~10 年度)

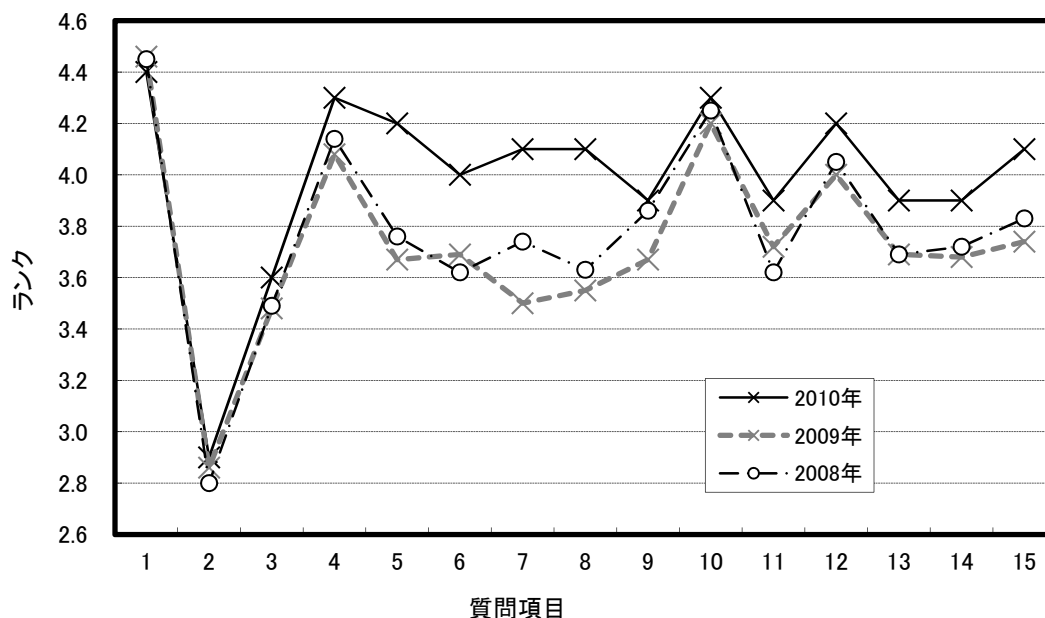


図 4 は、比較的クラス規模の小さな語学必修・語学選択・ゼミナール I の 3 グループについて図示しています。最高は例年どおり語学選択となっています。語学必修とゼミナール I はともに必修科目ですので、選択科目に比べて評価が相対的に低くなりがちなのは、やむをえない傾向といえます。とはいえ、ゼミナール I に関する問 16・17 がかなり低下している点は、要注意でしょう。

クラス規模の大きな講義が多い一般教養、専門必修および専門選択では、一般教養が最高評価となっています(図 5)。一般教養の経年変化を図示した図 6 を見ると、問 4~8、問 11~15 でかなりの上昇が見られます。このような一般教養の目覚ましい改善が、2010 年度の最大の成果といえるようです。こうした経験が他の科目にも活用されることが期待できます。

2-4. クラス規模別の集計結果

経済学部授業評価アンケート調査では、受講者数でみたクラス規模別のデータも集計しています。これは表 4 に掲げてあります。

平均値をみますと、やはりクラス規模の小さい 40 人未満や 40 人以上~60 人未満が最高の 4.0 となっており、一方、最大規模の 300 人以上は 3.8 です。実際に講義を受けている学生の皆さんも感じているように、クラス規模は小さい方が学習しやすいといえます。ただ、その差は 0.2 ですから、さほど大きくはないようです。平均だけでなく、質問項目ごとに見ても結果は同様です。

クラス規模が小さい方が好ましいことはいうまでもありませんが、教員が努力すれば、講義の環境や理解度はそれなりに改善されるのでしょうか。

表 4 一般講義アンケート評価のクラス・サイズ別平均の比較 (2010 年度)

サイズ の別	40 人未満	40 人以上 60 人未満	60 人以上 100 人未満	100 人以上 200 人未満	200 人以上 300 人未満	300 人以上
設問 1	4.4	4.3	4.4	4.3	4.3	4.3
設問 2	3.6	3.4	3.3	3.2	3.2	3.3
設問 3	3.5	3.7	3.6	3.5	3.5	3.5
設問 4	4.1	4.2	4.1	4.1	4.2	4.1
設問 5	3.9	4.0	3.9	3.8	3.8	3.8
設問 6	3.7	3.8	3.7	3.7	3.7	3.7
設問 7	4.0	4.0	4.0	3.9	3.8	3.8
設問 8	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.7
設問 9	3.9	4.0	3.9	3.8	3.9	3.8
設問 10	4.2	4.2	4.1	4.1	4.2	4.1
設問 11	4.1	4.0	3.9	3.9	4.1	3.9
設問 12	4.1	4.1	4.0	4.1	4.1	4.0
設問 13	4.0	4.0	3.9	3.8	3.8	3.7
設問 14	4.0	4.0	3.9	3.8	3.7	3.7
設問 15	3.9	3.9	3.9	3.8	3.8	3.8
合計	59.3	59.5	58.5	57.6	57.9	57.3
平均	4.0	4.0	3.9	3.8	3.9	3.8

3. ゼミナール科目の集計結果

次に、ゼミアンケートの集計結果を紹介します。以下に掲げるのは、2 年次以降に開講される専門ゼミの全クラスについて実施された調査の結果です。

過去 3 年間における経年変化をみると、2010 年度は 2009 年度と大差ありません。2008 年度と比べますと、質問項目によってはやや差が生じているようですが、全体としてどの質問項目でも 3.9 以上の高評価であり、また 2008 年度と 2009～10 年度との差は小さく、問題にするには当たらないかもしれません。

ただ、学科間には相当大きな差異が生じております(図 8)。最高は国際経済学科で、問 5～13 においては他の 3 学科をかなり引き離しております。同学科は 2009 年度においても最高の評価でした。こうした学科間の差異がなぜ生じるのか。この点を明らかにすることも今後の課題でしょう。

図7 専門ゼミナール：学部全体の動向

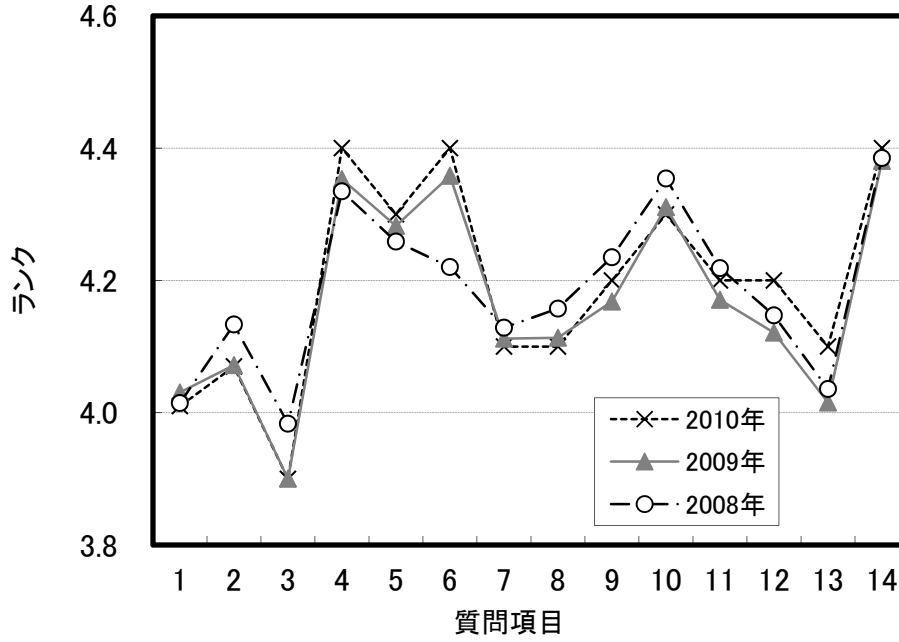
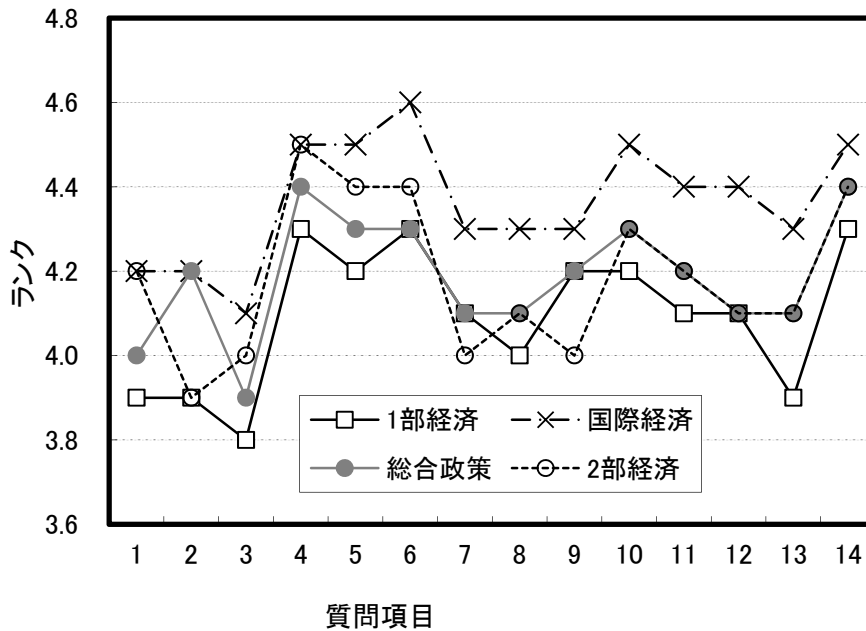


図8 ゼミナールⅡ～Ⅳアンケートの学科別平均の比較（2010年度）



通常の講義よりも受講生と教員との距離が近く、また、学生同士も親密になりやすいゼミナールの満足度や理解度が一般講義よりも高くなるのは、当然といえます。ただ、このことから、ゼミの運営や指導方法の改善を考慮する必要がない、とまでは言い切れません。実際、学科間に差異が生じるのは、運営方法などに改善の余地があることを示唆しているのかもしれませんが。2011年度からはアンケートの内容や集計方法を改善する予定です。それによって、どのような改善の手がかりが得られるのか、大いに期待されます。

おわりに

授業評価アンケートの結果から、学部教育を改善していくための役立つ情報を数多く引き出すことができることは、これまでの経験から明らかです。2010年度の場合もその例外でないことは、上述の観察事実によって裏付けられています。

もちろん、アンケートの集計結果から得られる情報には限界もあります。しかし、客観的なデータを参考にしながら学部教育を改善する姿勢を常に持ち続けることは、直感や日頃の印象による思い込みを修正し、学生のみなさんの理解度・満足度を向上させていくうえで非常に有効であると、私たち教員一同は考えております。

こうしたアンケート調査をさらに充実させ、学部教育の改善を図るために、2011年度からはアンケートの集計方法やその内容を大幅に見直す予定です。とはいえ、実際にアンケートの結果に基づいて正しい改善方向に踏み出すためには、アンケートの回答者である学生の皆さんの真摯な協力が不可欠です。今後とも授業評価アンケート調査に対するご理解とご協力のほど、どうかよろしく申し上げます。